

2019年3月期 第2四半期 決算説明会

2018年11月26日



パンチ工業株式会社

(証券コード:6165 東証第一部)

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

本日の内容

【第一部】

1. 2019年3月期 第2四半期 決算概要
2. 2019年3月期 通期業績予想

【第二部】

3. 後半戦の展望と中期経営計画の進捗



1. 2019年3月期 第2四半期 決算概要

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■2019年3月期 第2四半期の決算概況

2019年3月期 第2四半期 決算ハイライト

第2四半期連結累計期間の実績は売上・利益ともに計画未達。
日本及び中国において景気の先行きは不透明感を拭えず。

売上	連結	連結売上高は、前年同期比105.7%、11億円増の209億円。
	日本	前年同期比99.7%の84億円。 食品・飲料関連等が受注伸長するも、自動車関連等が軟調。
	中国	前年同期比108.7%の104億円。 継続して取組んでいる高付加価値の戦略製品が大きく伸長。
	その他	前年同期比118.5%の21億円。 引き続き、欧州を中心として好調に推移。
利益	営業利益は前年同期比97.8%の13.7億円。 設備投資、研究開発投資の減価償却費等による販管費の増加や工場の 先行投資負担増等による原価率アップもあり、減益。 経常利益は前年同期比95.8%の13.4億円。 当期利益は前年同期比109.1%の10.0億円。	
ネット資金	ベトナム工場への投資等により、期首から9.0億円減少。	

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

3

■2019年3月期 第2四半期の決算ハイライト

パンチグループ全体としては、前年同期比では増収減益、計画比では売上・利益ともに未達という結果

■売上は、中国は高付加価値製品の伸長もあり、第1四半期に引き続き好調を維持。米中貿易摩擦については、足下では無視出来ない状況となっているものの、決算期が3ヵ月ずれていることもあり、第2四半期の業績には大きな影響なし

一方、日本国内は、各地で相次いだ自然災害などの影響もあり、自動車関連、電子部品・半導体関連等を中心に軟調

■営業利益は、設備投資、研究開発投資の減価償却費等による販管費の増加や工場の先行投資負担増等による原価率アップもあり、前年同期比2%減の13億74百万円

■経常利益は、ベトナム工場への追加投資を目的とした米ドル建て借入金の増加による金融収支の影響等もあり、前年同期比4%減の13億40百万円

■当期利益は、固定資産除却損の減少等により前年同期比9%増の10億5百万円

■ネット資金は、ベトナム工場への投資等により、期首から9億4百万円の減少

※当期利益＝親会社株主に帰属する四半期純利益

損益計算書サマリー

(単位:百万円)

	2018年3月期 第2四半期		2019年3月期 第2四半期		前年同期差	前年同期比
売上高	19,800		20,937		1,136	105.7%
営業利益	7.1%	1,404	6.6%	1,374	▲30	97.8%
経常利益	7.1%	1,398	6.4%	1,340	▲58	95.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4.7%	921	4.8%	1,005	83	109.1%

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

4

■決算数値の概要

■売上高は209億37百万円で、前期比105%、11億36百万円の増収
営業利益は13億74百万円、
経常利益は13億40百万円、
当期利益は10億5百万円

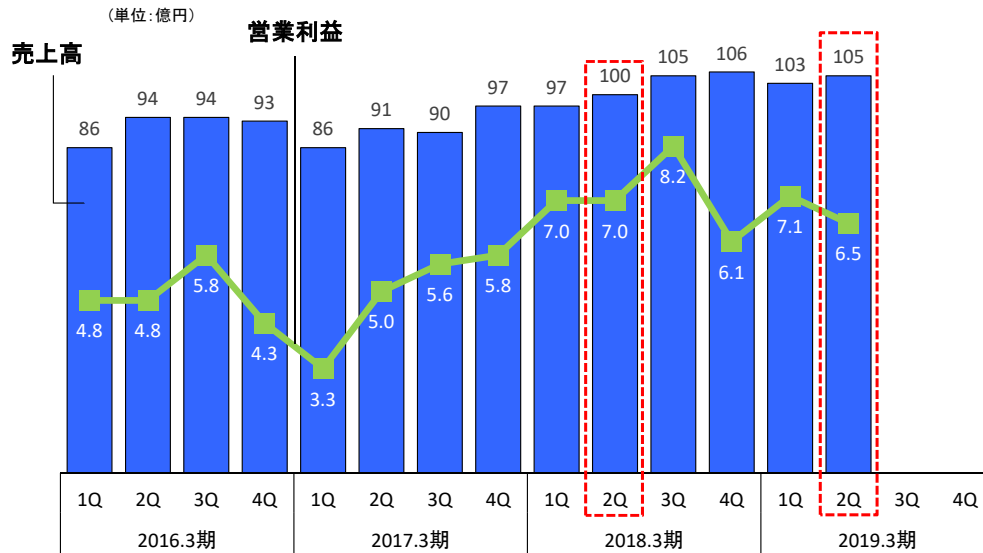
■本年5月11日に公表した業績予想からの差異

売上高は▲1億98百万円、
営業利益は▲1億6百万円、
経常利益は▲78百万円、
当期利益は▲72百万円

※当期利益＝親会社株主に帰属する四半期純利益

売上高と営業利益の推移

第2四半期として、売上高は上場来最高を更新するも減益。



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

5

■ 四半期ベースの売上高と営業利益の推移

■ 日本とインド以外は暦年決算となっており、連結決算に占める売上構成比の高い中国は4~6月が連結上の第2四半期となる

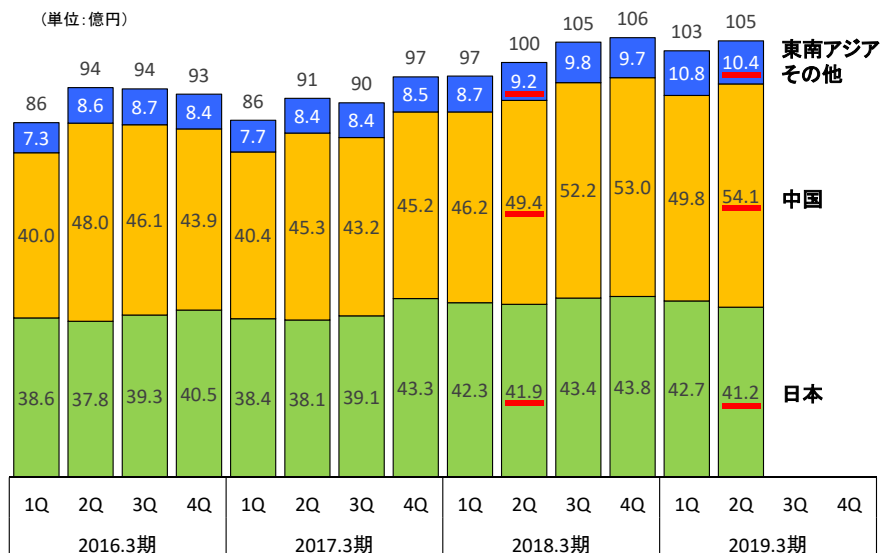
■ 第1四半期に引き続き、第2四半期についても、売上は好調を維持しており、第2四半期の会計期間としては上場来最高を更新

■ 営業利益はベトナム工場のフェーズⅡ投資が、第2四半期から本格化し、原価率がアップした影響等もあり、第1四半期から減少

地域別売上高

四半期ベースで、海外事業は増収を達成。

(単位: 億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

6

■ 四半期ベースの地域別の売上高

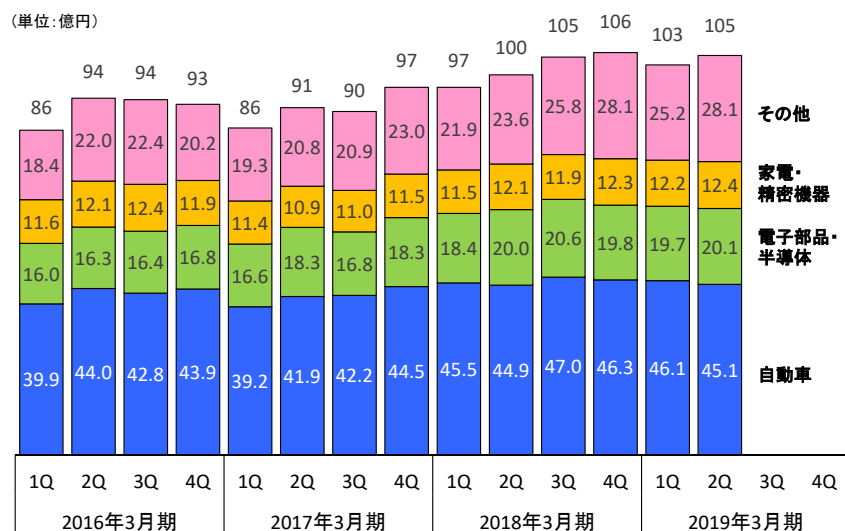
■ 日本は、食品・飲料関連等が受注伸長するも、各地で相次ぎ発生した自然災害などの影響等もあり、自動車関連等が軟調

■ 中国は、取組み継続中の高付加価値の戦略製品が伸長

■ 東南アジアその他は、欧州、米州、ベトナムが好調

業種別売上高

食品・飲料関連の受注が拡大する等、「その他」の伸長が貢献。



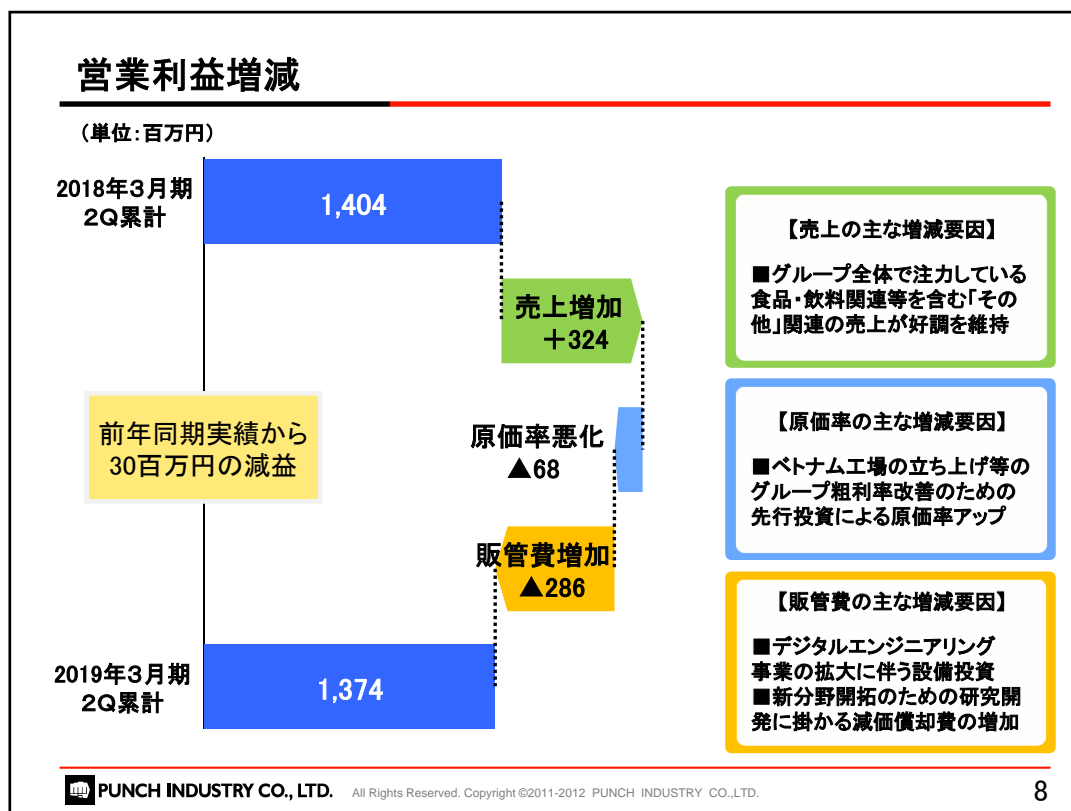
注) 中国における業種区分修正に伴い、2017年3月期のデータを修正

■ 四半期ベースの業種別売上高の推移

■ 自動車関連の売上は日本が軟調だったものの、中国が第1四半期に引き続き堅調で全体を底上げ

■ 電子部品・半導体関連は第1四半期では好調に推移していたが、第2四半期に入り微増に留まった

■ その他の中では、高付加価値製品として当社グループが注力している食品・飲料関連等が引き続き好調に推移



■ 営業利益の増減分析

■ 前年同期実績の14億4百万円から、
売上増加の影響により3億24百万円の利益増

一方、ベトナム工場の立ち上げ等のグループ粗利率改善のための先行投資による原価率アップもあり、68百万円、

また、デジタルエンジニアリング事業の拡大に伴う設備投資や研究開発投資等による減価償却費の増加による販管費の増加があり、2億86百万円の利益減

■ 2019年3月期 第2四半期の実績は、13億74百万円となり、前年同期に対し、30百万円の減益

貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2018年3月期末	2019年3月期 第2四半期末	比較増減
総資産	32,560	31,524	▲1,035
総負債	16,385	15,022	▲1,363
うち有利子負債	6,332	5,922	▲410
純資産	16,174	16,502	327
ネット資金	▲2,561	▲3,465	▲904
自己資本比率	49.6%	52.2%	2.6pt

	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	比較増減
設備投資額(無形固定資産含む)	1,192	1,352	160
減価償却費(無形固定資産含む)	761	822	61

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

9

■貸借対照表サマリー

■総資産は315億24百万円、総負債は150億22百万円

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加等により、165億2百万円

■自己資本比率は、前期末より2.6pt上がり、52.2%、

■設備投資額は、計画通りベトナム工場等への投資を行い、13億52百万円

2. 2019年3月期 通期業績予想

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■2019年3月期の業績予想(2018年11月9日に修正済)

2019年3月期 通期業績予想を修正

(単位:百万円)

	2019年3月期 通期連結業績		
	期初予想 (5/11公表)	修正予想 (11/9公表)	修正予想差 (修正予想比)
売上高	42,000	41,000	▲1,000 (97.6%)
営業利益	7.0% 2,920	6.1% 2,500	▲420 (85.6%)
経常利益	6.7% 2,800	5.9% 2,400	▲400 (85.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	4.9% 2,070	4.3% 1,750	▲320 (84.5%)
自己資本利益率(ROE)	12.0%	10.5%	▲1.5pt

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

11

■修正した通期業績予想と期初予想との差異

■2019年3月期 第2四半期連結累計期間の実績は、海外事業は好調を維持しているものの、国内事業における市況の悪化の影響から、全体として売上、利益ともに業績予想を下回る結果

■第3四半期以降は、上記に米中貿易摩擦の影響等が加わり、海外事業及び国内事業における景気の停滞懸念により、自動車関連を中心とした売上減と、それに伴う工場稼働低下等による原価率アップ等が見込まれること等が、通期連結累計期間における業績予想を修正する理由

2019年3月期 業績及び配当の予想

(単位:百万円)

	2018年3月期 (実績)		2019年3月期 (予想)		前期差	前期比
売上高	41,025		41,000		▲25	99.9%
営業利益	6.9%	2,843	6.1%	2,500	▲343	87.9%
経常利益	6.7%	2,731	5.9%	2,400	▲331	87.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4.4%	1,788	4.3%	1,750	▲38	97.8%
自己資本利益率 (ROE)	11.8%		10.5%		▲1.3pt	

2019年3月期
配当予想(修正)

16円75銭 = 中間 10円25銭 + 期末 6円50銭

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

12

■修正した通期業績予想と前期実績との差異

■「バリュークリエーション2020」3年目の経営目標値としては当初、売上420億円、営業利益は25億円、当期純利益は17億円

前期までは利益面では1年前倒しで堅調に推移していたが、巡航速度に戻った

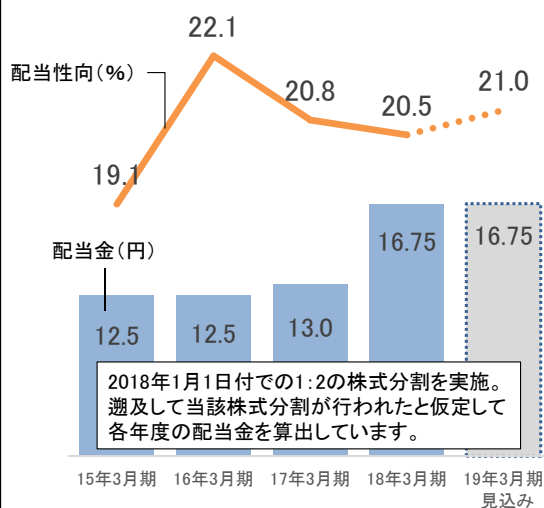
■配当予想は、業績予想修正に伴い、1株につき6円50銭に修正した結果、年間配当は前年と同額の16円75銭を予定

内訳は、中間10円25銭、期末予定6円50銭

1株当たり配当金と配当性向

【配当方針】

安定かつ継続的な配当に加え、業績連動により連結配当性向20%以上を目安としており、増配基調を維持しつつ、段階的に引き上げることが目標。



継続的企業価値向上の基盤は、株主の皆様からの「信頼」と「応援」であり、「期待」にお応えすることが経営上の重要課題。

2019年3月期の配当(見込み)
 中間 10円25銭+期末 6円50銭
 = 16円75銭予定(前年と同額)

■ 1株当たり配当金と配当性向

■パンチグループは、2012年12月の上場を期に、「世界のパンチ」を目指し新たなスタートを切った会社であり、まだまだ成長に向け、R&D投資、IT投資等も含めた戦略投資も必要なステージにある

■一方で、内部留保と還元バランスもとりながら、中期経営計画「バリュークリエーション2020」で掲げた四つの重点経営課題に取組み、持続的に成長していくなかで、株主の皆様への還元にも取組む

■今期は市況の不透明感の高まりもあり、通期業績予想を減益修正したが、配当金額を維持し、配当性向を引上げることとした

■配当金額は前年と同額予定となったが、高収益体質を実現していくことで、増益・増配基調を堅持しつつ、盤石な財務基盤と高いROEの両立を目指す



■後半戦への展望と中期経営計画「バリュークリエーション2020」の進捗

後半戦への展望(日本の売上動向)

日本拠点数

生産	販売
4	12
カ所	カ所

※北海道は拠点なし

2019年3月期4~9月
西日本の前年同期比

94%

※名古屋、京都、大阪、
広島、福岡の5拠点

2019年3月期4~9月
東日本の前年同期比

102%

※北上、仙台、宇都宮、
北関東、関東、長野、
金沢の7拠点

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

15

■後半戦への展望(日本)

■第2四半期累計売上では、前年同期比99.7%

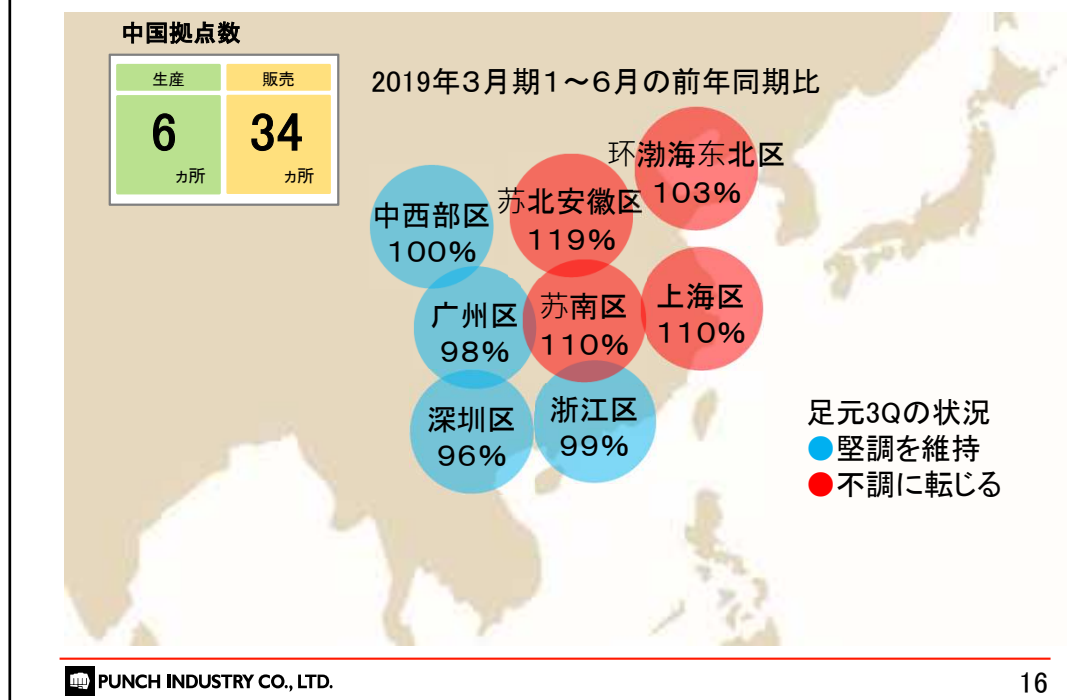
■日本を東西にセグメントすると、

東日本は前年同期比102%、西日本は前年同期比94%

■西日本での6月に起こった大阪府北部地震、また6~7月に発生した台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨が影響

■足元では、やや明るい兆しも見え始めており、楽観視は出来ないが、受注確保に向けて取組む

後半戦への展望(中国の売上動向)



■後半戦への展望(中国)

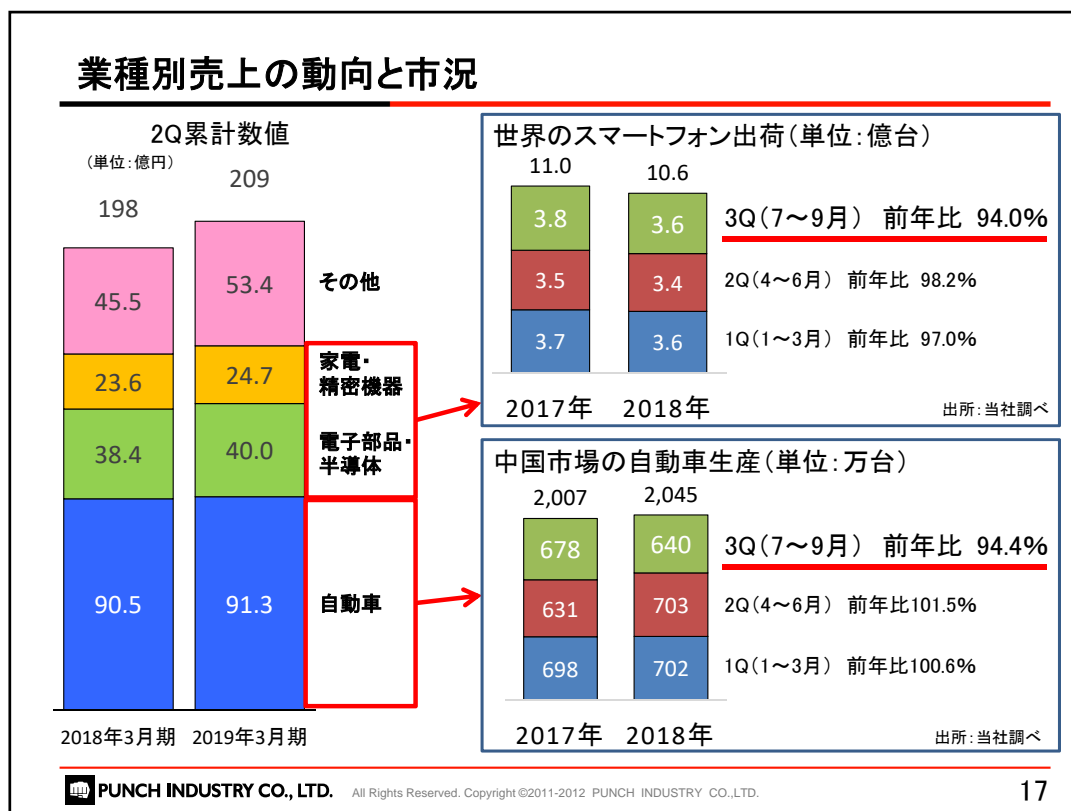
■第2四半期累計売上では、前年同期比108.7%

■中国での営業は8つのエリアに分けて管理を実施

第2四半期累計売上では好調だったエリアが、足元では不調

■自動車生産台数の減少などによる自動車関連売上の落ち込みが不調の要因

■引き続き、自動車関連を主軸としながらも、戦略的に取組んでいる分野での積上げや、順調に推移している欧米向けを中心とした輸出にもアクセルを踏んで、受注確保に向けて取組む



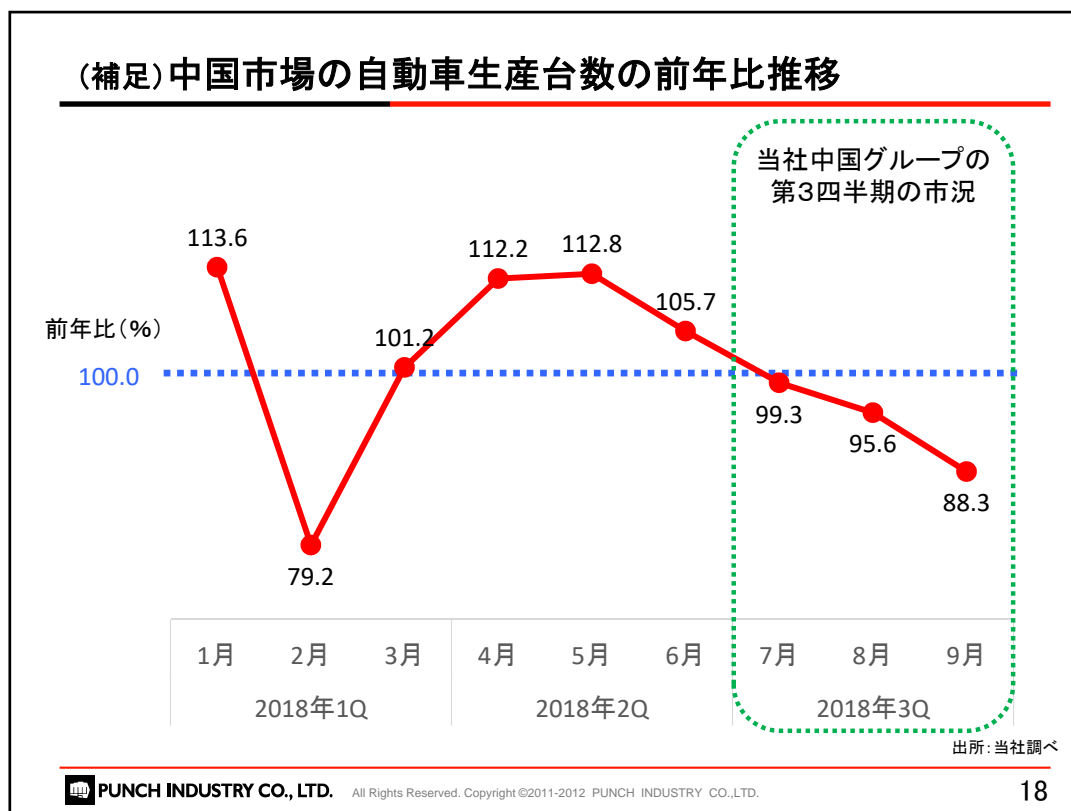
■業種別売上の動向と市況

■左のグラフは前期と今期の第2四半期累計の業種別売上の比較

第2四半期までは好調な市況を受けて、順調に売上を計上

■但し、右のグラフにある通り、第3四半期以降(7月以降)、世界のスマートフォン出荷は減速の度合いが深まっていることから、主たる生産国である中国への影響も大きくなっており、日本がメインとなっている基幹部品生産への影響も出ている

■また、中国における自動車生産も第3四半期以降、前年割れに陥っており、以上の状況を踏まえ、今回、年間業績予想の見直しを実施



■中国市場の自動車生産台数の前年比推移(月別)

■米中の貿易摩擦などの影響もあり、2018年5月をピークに中国の自動車生産台数の前年比は下降しつつあり、7月から前年割れ

■このような環境の中で、自動車関連以外の業種に対してのアプローチを強化しているが、なかなかカバーしきれていない状況

■日本では、特定のお客様へフォーカスした製造・販売一体となった受注活動を既に展開中

今年度のみならず、来年度以降にもつながる商談も進捗しており、お客様ニーズにマッチさせた生産体制の構築へ向けた取組みは後段にて説明

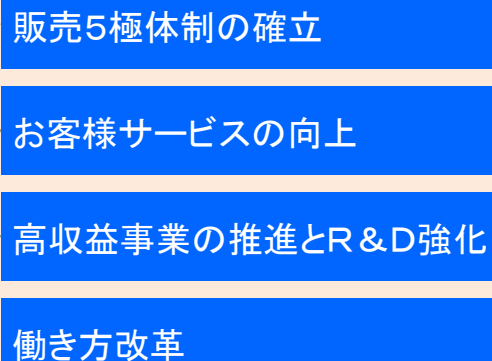
■中国では、前述の通り、戦略製品分野の拡販及び輸出に積極的に取り組む

「バリュークリエーション」重点経営課題

バリュークリエーション15



バリュークリエーション2020



■「バリュークリエーション2020」の重点経営課題

天変地異や米中貿易摩擦など、先がなかなか見通しにくい経営環境ではあるが、中期経営計画「バリュークリエーション2020」の各施策は粛々と推進中

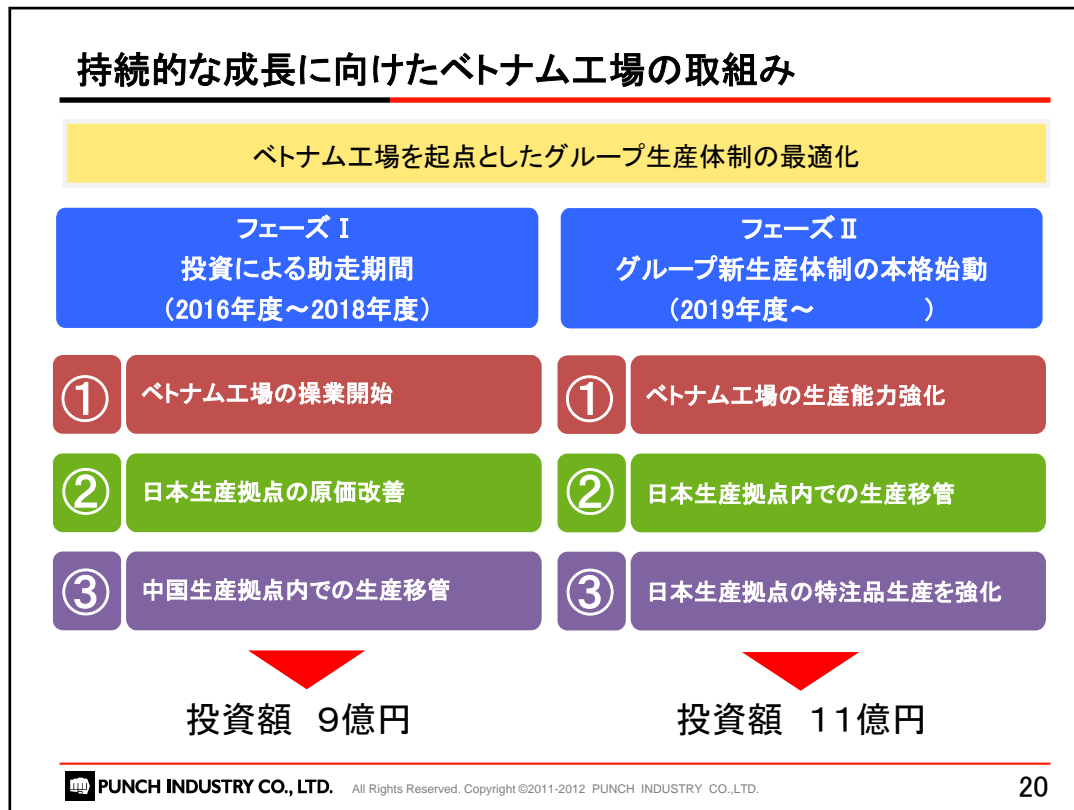
■2015年度(2016年3月期)に終了した「バリュークリエーション15」では、「グローバル化」「新市場の開拓」「高収益事業モデルへの転換」の3点を掲げ取組んだ

■2016年度(2017年3月期)からスタートした5カ年計画「バリュークリエーション2020」では、「バリュークリエーション15」の三つの経営課題は引き継ぎながら、

- 販売5極体制確立(5極＝日本、中国、東南アジア・インド、欧州、米州)
- お客様サービスの向上
- 高収益事業の推進とそのためのR&D強化
- 働き方改革

という4つの重点経営課題を掲げている

■以上が、「バリュークリエーション2020」の骨子であり、これらの取組みをベースに狙っていくのは、これまでも掲げている「世界のパンチ」を目指すということ



■「高収益事業の推進とR&D強化」の取組み状況

大きなキーポイントは、2016年10月に稼働を開始したパンチグループが多くのリソースを割いて注力しているベトナム工場

「バリュークリエーション2020」における取組みは、二つのフェーズ構成

▼2016～2018年度までを「投資による助走期間」をフェーズ I

▼2019～2020年度を「グループ新生産体制の本格稼働」をフェーズ II

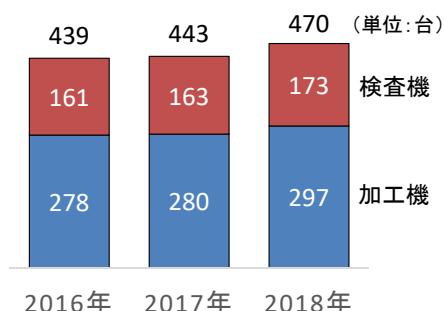
■フェーズ I である「投資による助走期間」は、ベトナム工場操業開始と、それに伴う中国からベトナムへの半製品(ブランク材)の生産移管は着実に進捗中

■2019年から完成品であるカタログ品の一部を生産開始するフェーズ II においても、今年度は投資による償却費の増に加え、これらの設備を動かすためのシステム開発、オペレーターの採用など費用を計上しており、いわばインプットとしての経費が先行

アウトプットとしては、「バリュークリエーション2020」の後半2年においてしっかりと利益増に繋げていくための重要な取組みであり、今月11月にフェーズ II へ移行するため、全7段階による発注システムトライアルを開始し、最終のトライアルは2019年2月を予定

■当社グループとしての狙いは、このベトナム工場をトリガーに、グループ生産拠点の最適化と特注品生産ドライブであり、これにより総合的な高収益化を狙っていく

国内工場での高付加価値製品生産の強化



■北上第一工場、第二工場の状況
・加工機+検査機ともに増加中
⇒スペース確保は必須



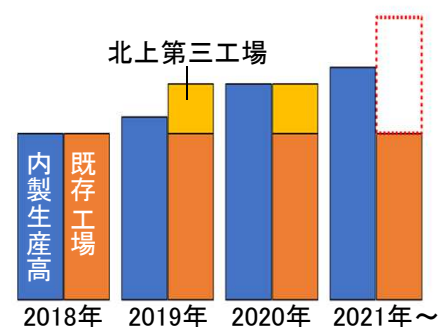
2019年春頃より第三工場を予定
⇒新分野の生産効率を改善



北上工場全体の最適化

国内生産の強化

高付加価値生産+特注品シフト加速



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

21

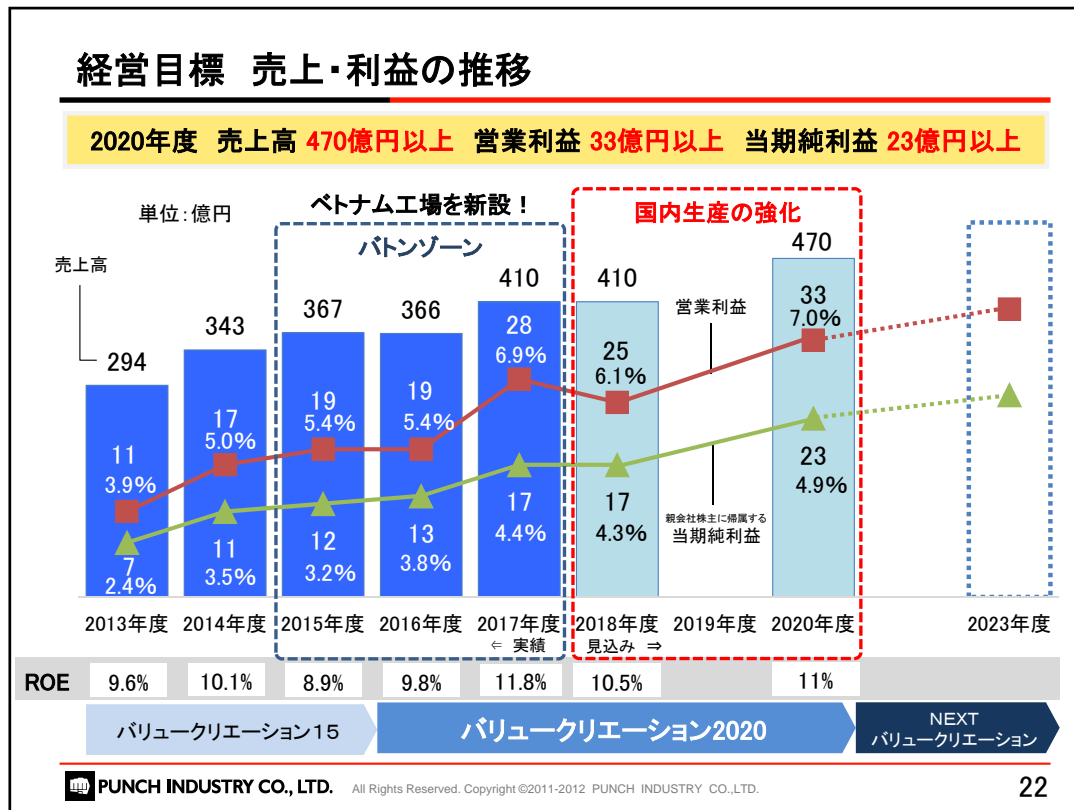
■国内工場での高付加価値製品生産の強化

増床が完了した大連工場に続き、日本国内の生産体制の最適化へ着手

■国内旗艦工場である北上工場は、お客様のニーズにお応えすべく加工機、検査機ともに増加中であり、今後の内製生産高の引き上げには空きスペースの確保が必須

■北上工場全体として、来年度に向けた特注品受注確保に向け、一時的ながら、2019年春から追加工場(北上第三工場)を検討しており、これを契機として、北上工場自体の当面の最適化を図ることはもとより、国内生産体制の清流化も狙いながら、注力していく食品・飲料関連などの新分野の高付加価値品の生産効率改善を行う

■次期中期経営計画の発表までには、最終的に目指す姿、ありたい姿の検討と併せ、現在考えていることや、これから議論していくことも踏まえ、先々に向けた「新たな手」も打っていく



■「バリュークリエーション2020」の経営目標売上・利益の推移

■景況感は依然として不透明感が拭えない状況

中期経営計画「バリュークリエーション2020」の各種施策へパンチグループ一丸となって取り組むことによって、2020年度の経営目標へ挑戦を継続

「バリュークリエーション2020」の経営目標における基本的な考え方は変更なし

- 稼働を開始したベトナム工場を、しっかりと運営する
- 欧米での販売体制を確立し、販売5極体制の推進を行う

■ベトナム工場がフェーズⅡ移行のためのテストを継続実施しており、ここをきっかけとして、次はパンチグループ生産体制の最適化へ向けて「国内生産の強化」を実施するための準備期間へと移行

トップメッセージ

①

ベトナム工場のフェーズⅡ移行テスト実施

②

グループ生産体制の最適化準備(国内)

③

高付加価値を生み出す「ものづくり」の推進

④

ステークホルダーの皆様の期待値に応える

■2019年3月期に実施する施策

- ①ベトナム工場のフェーズⅡ移行テストの実施
- ②日本国内でのグループ生産体制の最適化準備の推進
- ③高付加価値を生み出す「ものづくり」の推進

■これらに取り組むことにより狙うのは、ステークホルダーの皆様の期待値(業績、還元、等々)に応えるということであると心得、これを最優先課題として取り組む

◇各資料につきましては、当社Webサイトよりご覧ください。

◆決算短信

<http://www.punch.co.jp/ir/library/tanshin.html>

◆決算説明資料

<http://www.punch.co.jp/ir/library/setsumei.html>

◆IRニュース一覧

<http://www.punch.co.jp/ir/2018/>

参考資料

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

会社概要

会社名	パンチ工業株式会社
本社所在地	東京都品川区南大井6丁目22番7号
設立	1975年3月
資本金	28億9,773万円
従業員数	4,298名(グループ連結、2018年3月末現在)
生産拠点	北上工場(岩手県北上市) 宮古工場(岩手県宮古市) 兵庫工場(兵庫県加西市)
グループ会社	株式会社ピンテック(山形市) 盤起工業(大連)有限公司(中国) 盤起工業(瓦房店)有限公司(中国) 盤起工業(無錫)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起弹簧(大連)有限公司(中国) PUNCH INDUSTRY INDIA PVT. LTD.(インド) PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア・ペナン) PUNCH INDUSTRY SINGAPORE PTE. LTD.(シンガポール) PUNCH INDUSTRY VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PUNCH INDUSTRY MANUFACTURING VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PT. PUNCH INDUSTRY INDONESIA(インドネシア) PUNCH INDUSTRY USA INC.(米国)

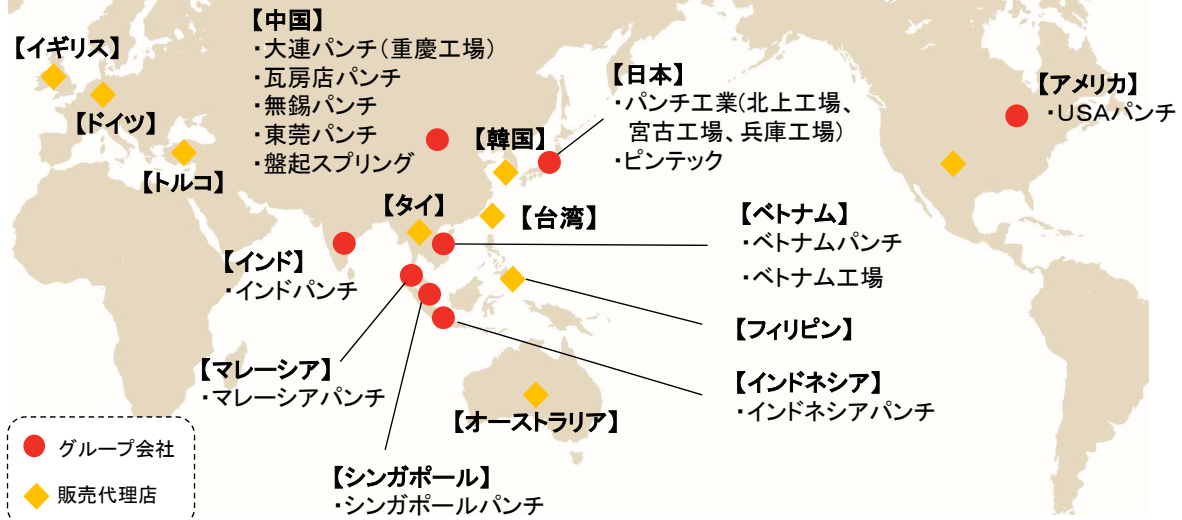
パンチグループのネットワーク

生産拠点数

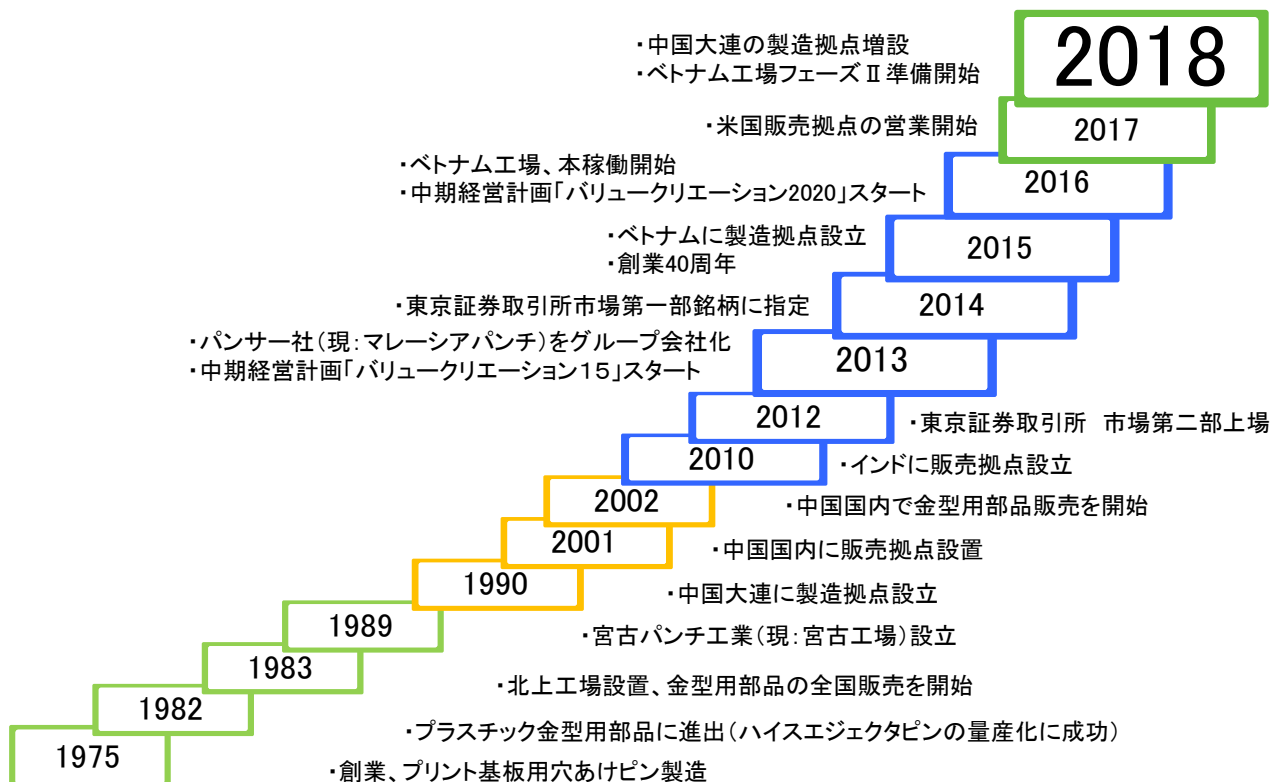
日本	海外
4	8
カ所	カ所

販売拠点数

日本	海外
12	41
カ所	カ所

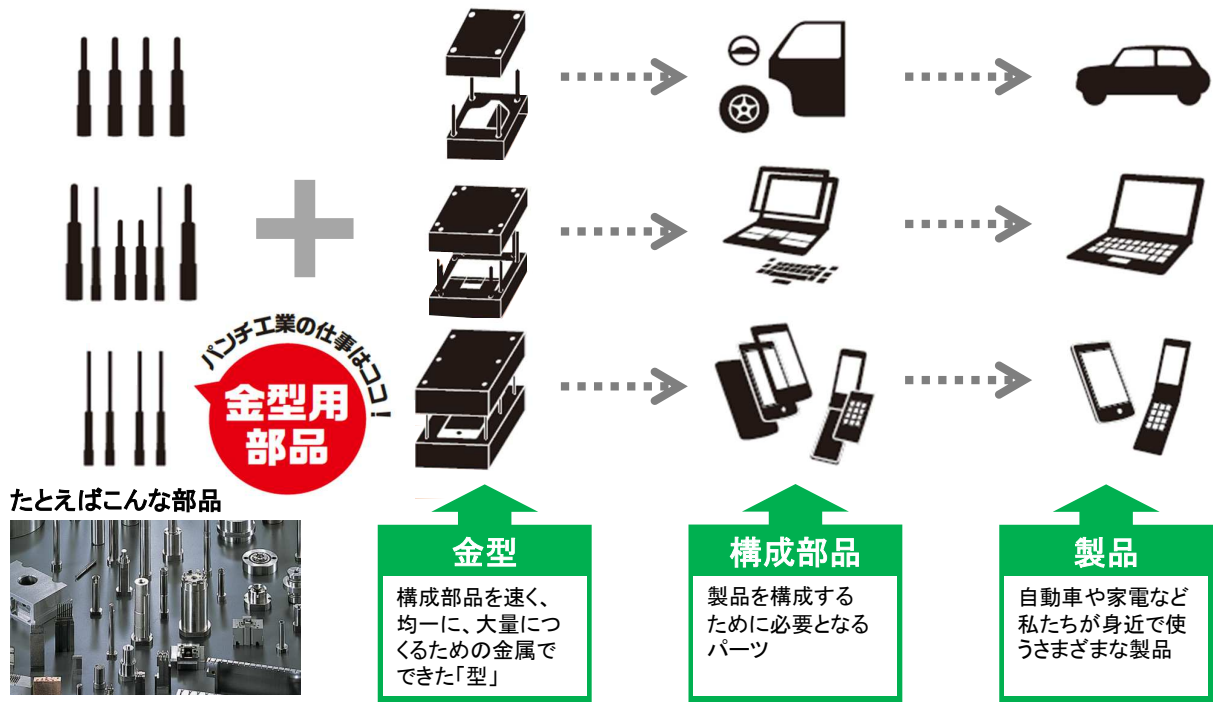


沿革

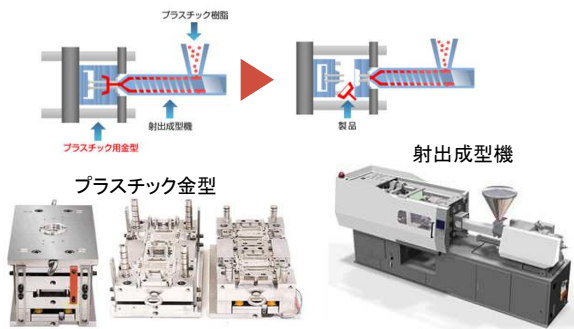


事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売



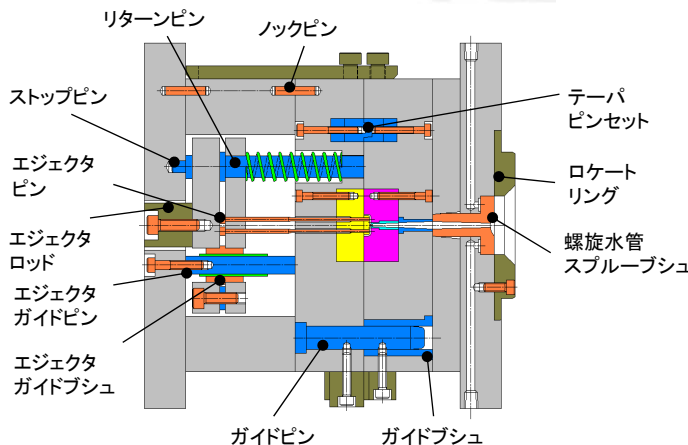
プラスチック金型と金型用部品



エJECTAピン



スプルーブシュ・ロケートリング



●プラスチック金型用部品について

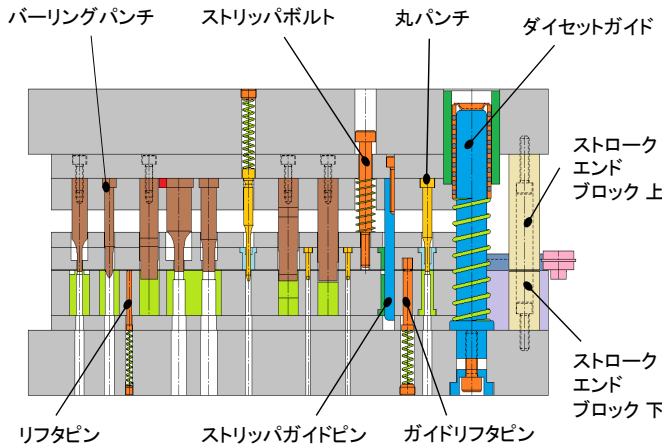
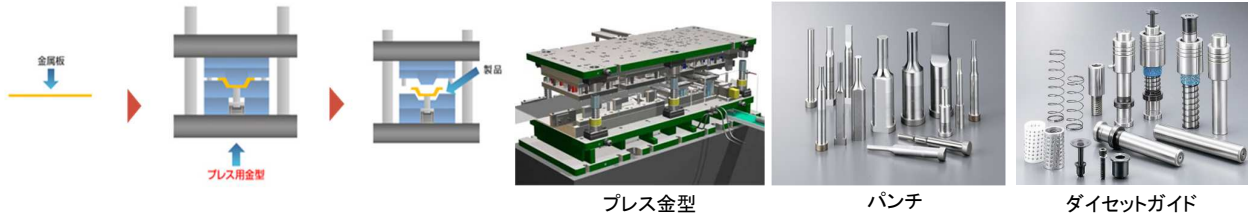
プラスチック金型とは、携帯電話やデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられる金型であり、加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成型機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られています。

当社グループでは、広範なプラスチック製品の射出成型用金型に組み込まれるエJECTAピン、スプルーブシュ等のプラスチック金型用部品の製造・販売を行っております。

エJECTAピン... 成型品を金型から離し、突き出すための部品

スプルーブシュ... 射出成型機の射出ノズルから溶融したプラスチックを金型へ流し込むための部品

プレス金型と金型用部品



●プレス金型用部品について

プレス金型は、プレス機(上下運動する機械)に金型を装着し、上下に分かれた金型の中に材料(金属の鋼板)を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品が出来上がります。

当社グループでは、自動車、家電、精密機器などを大量生産するために必要な、プレス加工で使用する金属の鋼板を打ち抜く際に使用するパンチ・ダイ部品、金型の上下の動きを保持するガイド部品等のプレス金型用部品の製造・販売を行っております。

- パンチ**..... パンチは材料に推しつけて使われる工具で、通常はダイと対で使われ、材料に穴をあけたり、形状を転写する部品
- ダイセットガイド**... 上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品

パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供

カタログ品

汎用性の高い標準製品を豊富にラインナップ

スピーディーなソリューション

特注品

カスタムニーズにも柔軟に対応

一気通貫の生産体制
2,000台の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制
きめ細かな対応・提案力

高い技術力
創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発

CSR経営と企業ビジョン

CSR経営

世界のものづくりを支える企業であり続けるために
CSR経営を実行しています。

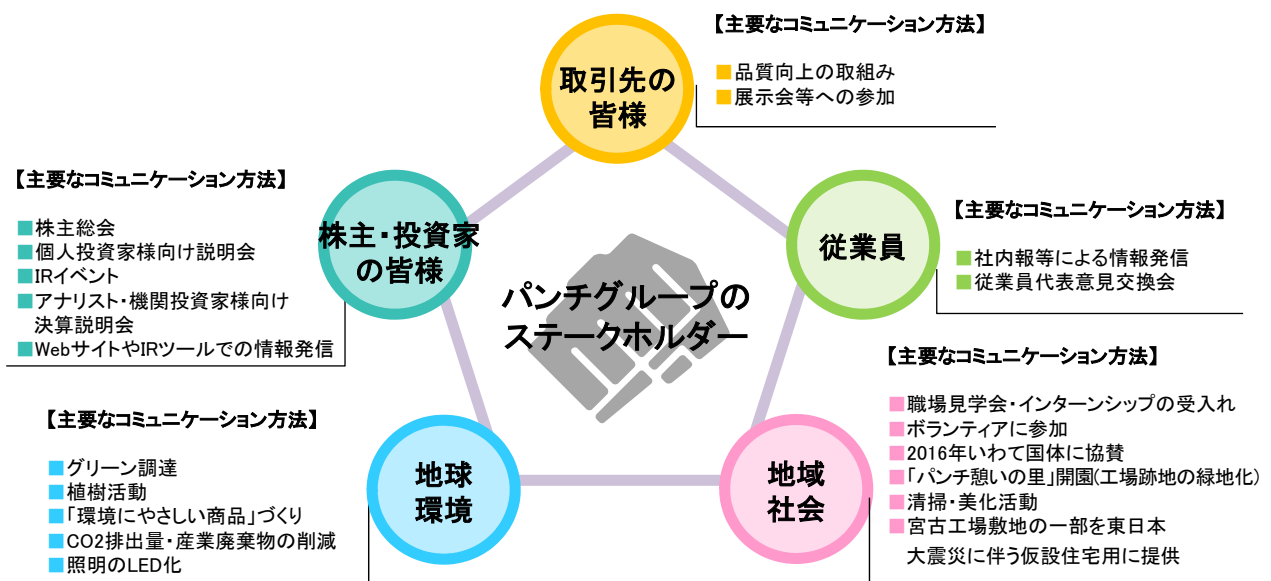
企業ビジョン



世界のパンチへ

金型部品業界での
トップブランドを確立し
製販一体企業としての
優位性を活かした
高収益企業を目指す

ステークホルダーとのコミュニケーション



IRイベント出展



「パンチ憩いの里」開園
(工場跡地の緑地化)

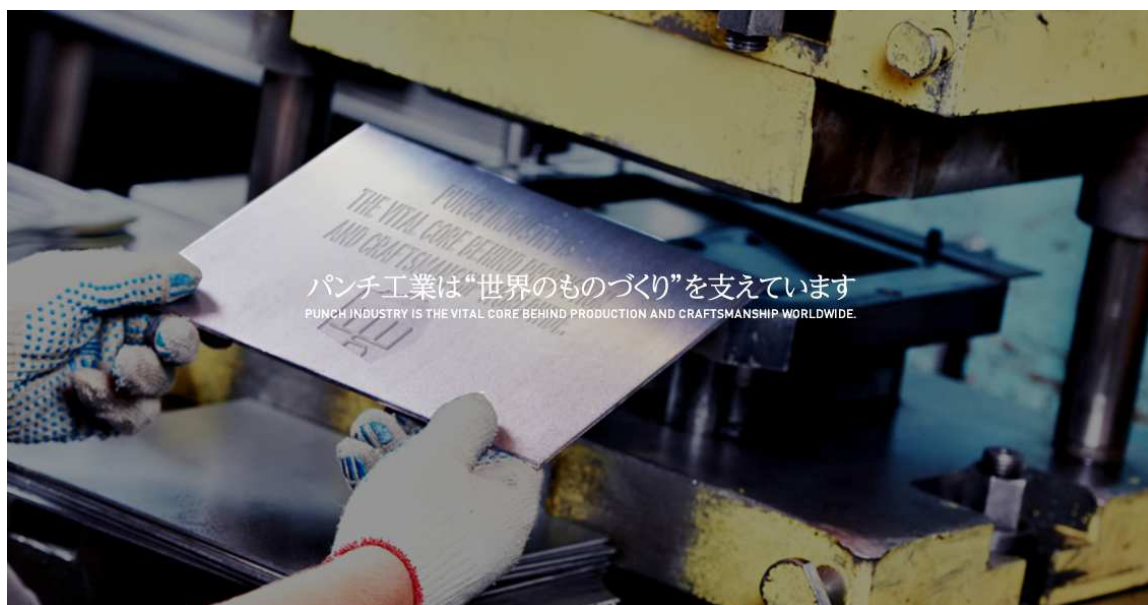


職場見学会



ボランティア活動
(2016年いわて国体)

本日は、誠にありがとうございました。



【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 経営戦略室 広報課 電話:03-5753-3130 e-mail: info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。